

活動時の位置による幼児同士の発話の相違

—就学期への円滑な移行を支える新しい生活様式下の保育活動の視点から—

The Effects of Differences in Children's Positions during Activities on Children's Dialogue

—From the Viewpoint of Preschool Activities Following a New Lifestyle to Support Smooth Entry to Compulsory Education—

高橋 一夫*・須増 啓之**・白波瀬 達也***

要 旨

保育における言語表現活動は、他者の意見に耳を傾ける、自身の意見を他者に伝える、といったコミュニケーションにおいて最も根幹となるスキルを獲得するために必要不可欠な活動である。また、就学期以降の子どもの言語表現活動を意識したうえで、乳幼児期の保育活動を設計することは、乳幼児期から就学期への円滑な移行を支えるうえでも重要な視点である。

本研究では、保育活動における幼児同士の発話に注目し、幼児の言葉によるコミュニケーションが豊かに展開するための要点を抽出することを目的としている。特に、本論では活動時の幼児の位置関係が、幼児同士の発話に対してどのように影響するのかについて注目した。この視点は、2020年の新型コロナウイルス感染症による生活様式の大きな変化に伴う幼児の活動の制限が、幼児同士の発話にどのような影響を与えるのかという視点に置き換えることが可能であり、今後の保育活動の設計に重要な示唆を与えるものと想定できる。

分析の結果、活動時の幼児の位置によって、幼児同士の発話の進展に相違があることが明らかになった。

キーワード：幼児 発話 伝え合い 言語表現活動 造形表現活動 新しい生活様式

はじめに

乳幼児期から就学期に至る過程において、その移行を円滑に支えるためには、保育現場においても、また小学校現場においても、それぞれの現場における子どもの状況や現場の特性について相互理解をすることが重要であるという認識は十分に共有されている。平成29年度告示の『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や、同じく平成29年度告示の『小学校学習指導要領』の「第1章 総則 第2 教育課程の編成 4 学校段階等間の接続」にある「幼児期の終わりまでに育ってほ

* 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 教授

** 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 講師

*** 常磐会短期大学 幼児教育学科 教授

しい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること」という文言は、まさに円滑な移行を支えるために、保幼小の保育・教育活動に対する相互理解の重要性を表しているものといえる。

ただ、円滑な移行を支えるためには、要領や指針などによって示されている事柄を、保育活動のなかで具体的に落とし込んでいく作業が必要である。例えば、保育現場における言語表現活動に注目した場合、幼児の就学期以降の生活を支えるという視点からは、幼児同士の会話が豊かに発展するような仕組みを有した保育活動の設計が求められることになる。そして、この設計が可能になるためには、幼児同士の会話の過程について、その特徴が明らかになっていることが前提条件となる。

そのため本論では、幼児の位置関係がコミュニケーションに与える影響について、異なる位置関係で実践された保育活動を観察し、幼児同士の会話の過程を分析することから、幼児同士の位置関係によって生じる相違の有無を検討した。

保育活動における幼児の位置

一般的に保育・幼児教育の主眼は、生活を通して子ども達の成長を支える点にある。そのため、就学期以降の児童・生徒の指導に見られる統制という側面からのアプローチではなく、子ども達の主体性を可能な限り重視した保育活動を展開する。したがって、活動中の子ども達の位置関係においても、小学校の教科学習のようにあらかじめ決められていることは少なく、それぞれの子どもが活動ごとに自由に選択できることが多い。

当然、様々な活動をするなかで、より良い活動のために、子ども達の状況に合わせて座席を指定することもある。しかし、そこには子ども達を担当する保育者の深い見立てがあり、子ども達の状況を十分に配慮した結果の位置関係であるといえる。

加えて、これまでの保育活動で重視された幼児同士の位置関係は、どちらかといえば、円滑な活動ができるように友達関係の親密度によって配慮されることが多かったように思われる。しかし、新しい生活様式への対応という今日的な課題からも、保育活動中の子ども達の位置関係について考慮する必要性に迫られている。それは、新型コロナウイルス感染症などへの対応から、保育活動においても子ども達の位置関係に配慮せざるを得ない状況が生まれている点である。

本来であれば、子ども達が自由に、希望する仲間同士で活動に参加し、その場で生まれる関わり合いを通した学びが重視されるべきである。しかし、子ども達の生命を守ることを最優先した場合、子ども達の位置関係を限定した保育活動にならざるを得ない。そのことは、おそらく子ども達にとって何らかの影響があるのではないかと想定される。したがって、これまでの生活では考えられなかった側面からの制限が生じたなかでの保育活動によって、子ども達にどのような影響があるのかについて、客観的に分析する必要がある。

調査実験の概要

本論における保育活動は、言語表現活動と造形表現活動を組み合わせたものである。この保育活動を採用した理由には、これまでの研究によって、活動中の幼児の集中力が継続されることが明らかになっている点が挙げられる。また、同時に、造形活動中の幼児同士においては、言葉による伝え合いが頻繁に生じることを捉えることができてことも重要な点である。

具体的には、幼児たちは言語表現活動として素話を聞いた後に、造形表現活動として素話の内容を描画するというものである。素話には昔話『ちからたろう』を選定した。昔話研究において『ちからたろう』は子ども達の多くが好む冒険譚であり、日本を代表する昔話研究者である関敬吾の著した『日本昔話集成』においては本格昔話に分類されている¹。また、昔話絵本としても様々な出版社から刊行されているため、有名な昔話として広く子ども達に親しまれている²。なお、今回の素話には、児童文学者の今江祥智が再話をおこなったポプラ社の絵本を利用し、一部の語句については、現在の子供達が理解しやすいように言い換えをする配慮をした。

次に、素話の後に造形表現活動として、描画活動をおこなったが、具体的には八つ切り画用紙とオイルパステル（16色）を用いた。八つ切り画用紙やオイルパステルは、一般的に保育活動で用いられるものを用意し、幼児たちが受け入れやすいように配慮をおこなった。加えて、今回は机を用いず保育室の床に画板を置き、その上に八つ切り画用紙を乗せて描画活動をおこなっている。

【調査実験Ⅰ：幼児同士の発話が制限される位置関係】

日時：2019年2月26日（火）10時開始

場所：大阪府下私立認定こども園

対象：年長児26名〈男児14名、女児12名〉

内容：素話『ちからたろう』の後に、オイルパステルを用いた描画活動をおこなう。

時間：素話（11分34秒）、描画（28分24秒）

描画：保育室に一円となり外向きに座り描画。座席位置は幼児の任意。

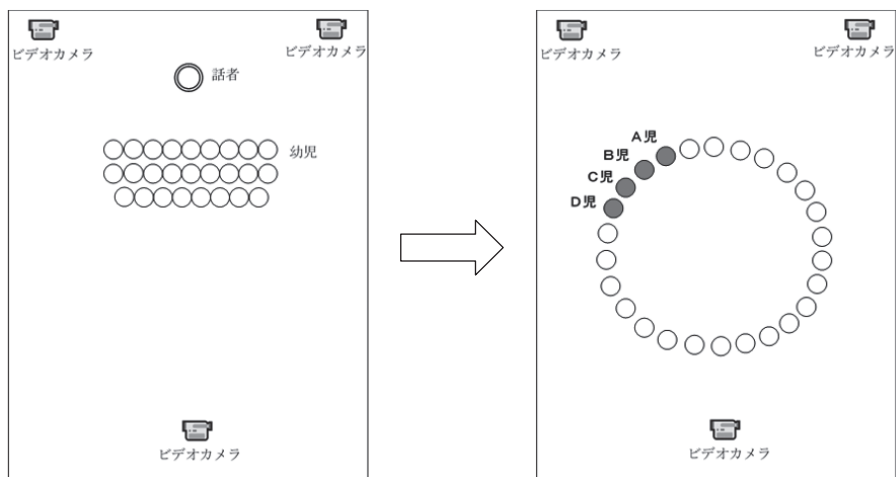


図1. 調査実験Ⅰの保育活動における幼児の位置

【調査実験Ⅱ：幼児同士の発話が制限されにくい位置関係】

日時：2019年2月26日（火）11時開始

場所：大阪府下私立認定こども園

対象：年長児26名〈男児12名、女児14名〉

内容：素話『ちからたろう』の後に、オイルパステルを用いた描画活動をおこなう。

時間：素話（11分50秒）、描画（24分45秒）

描画：4名および5名ごとに班となり内向きに座り描画。座席位置は幼児の任意。

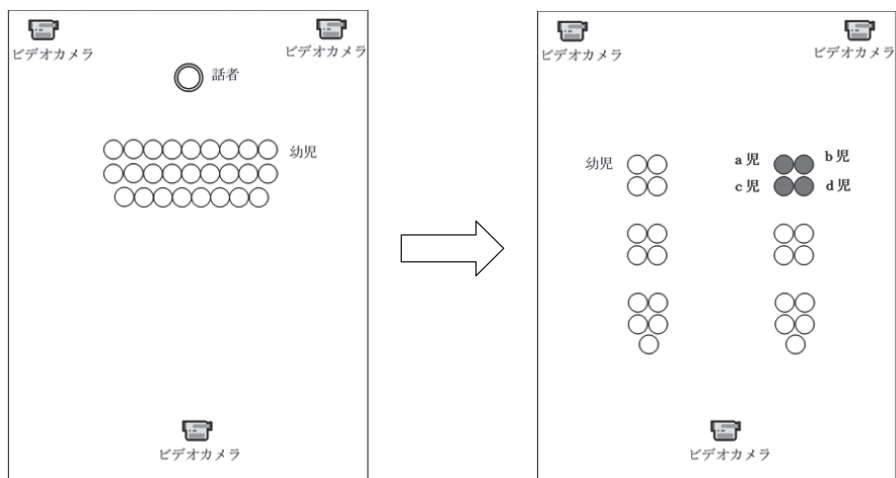


図2. 調査実験Ⅱの保育活動における幼児の位置

本論では、幼児同士の発話に注目し、保育活動中の幼児の位置関係による発話の相違の有無について分析をおこなった。位置関係は横一列に並んだ場合（図3）と、班編成での場合（図4）の2つを設定した。

図3に示したとおり、横一列に並んだ場合は、子ども達は対面の位置関係にならない。そのため、両横に位置する幼児同士の会話は円滑にできるものの、それ以外の幼児との会話は物理的な距離を超えておこなう必要が生じる。

一方で、図4に示した班編成の場合は、子ども達が対面になる状態である。正面に位置する場合と、横に位置する場合の会話が円滑にでき、さらに斜め前に位置する場合でも、対面であることから比較的容易に会話が可能だと推測できる。

本論における調査は、2019年2月に実施したもので、新型コロナウイルス感染症の影響が生じる以前であるが、図3に示した横一列で子ども達が対面にならない位置関係は、子ども達同士の飛沫によるウイルス感染を防ぐために設定される位置関係として読み替えることが可能である。

2つの位置関係の比較により、幼児同士の発話に違いが見られたとすれば、その知見を活かし、今後の保育活動を設計する際に、幼児同士の位置関係にも注目した配慮が可能となり、よりよい保育活動の展開が望めるといえる。

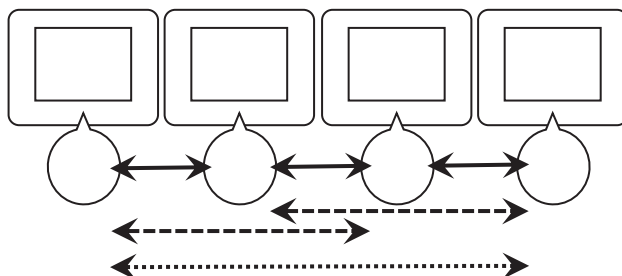


図3. 横一列に並んだ幼児の位置関係と想定されるコミュニケーションの状況

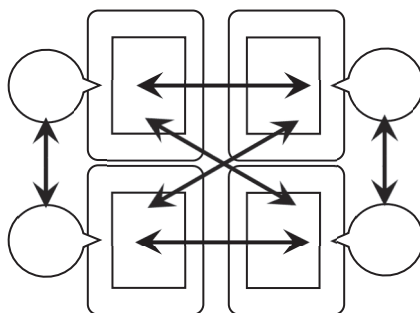


図4. 班編成での幼児の位置関係と想定されるコミュニケーションの状況

調査実験の結果

図5および6は、調査実験ⅠおよびⅡにおいて、発話に注目した幼児たちと描画の作品を示したものである。加えて、調査実験ⅠおよびⅡの幼児たちの発話を時系列でまとめたものが図7～9である。図7は序盤、図8は中盤、図9は終盤の活動中の発話である。発話内容はそれぞれ「素話の内容に関する発話」を濃い網掛けと白字で表し、「保育者への発話および内容が判然としない発話」を網掛けと黒字で表し、「素話の内容に関係しない発話」を薄い網掛けと黒字で表している。その他、行動や独り言に関しては文字だけで表記している。

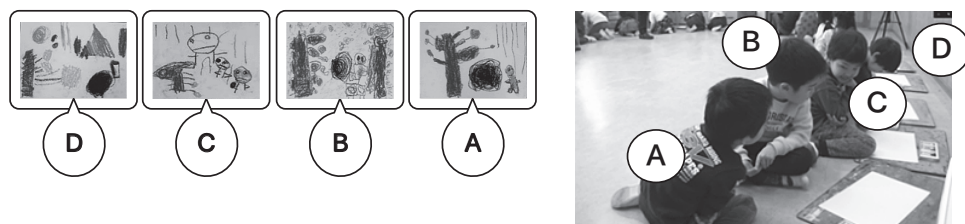


図5. 調査実験Ⅰにおいて注目した幼児たち（図1に示したABCD児）

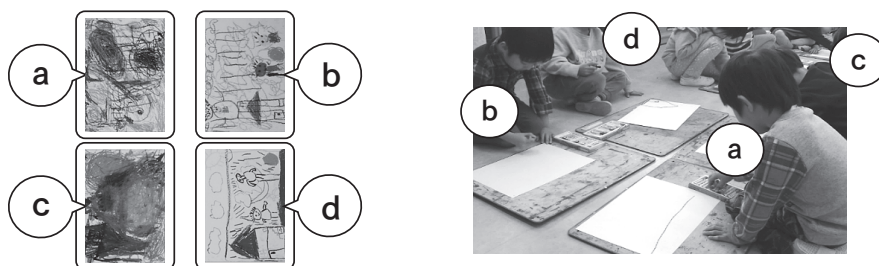


図6. 調査実験Ⅱにおいて注目した幼児たち（図2に示したa b c d児）

図7を確認すると、調査実験Ⅰの幼児たちは素話の内容に関係した発話が見られるものの、素話の内容とは関係しない発話も多くみられ、幼児同士の会話が一直線上に進展していない様子が窺える。一方で、調査実験Ⅱの幼児たちは、描画活動が始まった序盤から素話の内容に関係した発話が継続しており、幼児同士の会話が描画の内容に反映していく様子が見られる。

次に、描画活動の中盤における幼児たちの発話を示した図8を確認すると、調査実験Ⅰの幼児たちの発話は、素話に関する発話と関係しない発話が交互に生じていることがわかる。このことから、素話の内容を描画活動によって表現するという活動に集中することが、比較的短い時間で分断されていることが推測できる。一方で、調査実験Ⅱの幼児たちの発話は、序盤よりは少なくなっていることがわかる。ただ、c児とd児では、その行動の中心が描画に移っており、描画活動に集中しているために発話が少なくなっていると理解することができる。

最後に、描画活動の終盤における幼児たちの発話を示した図9を確認すると、調査実験Ⅰの幼

【調査実験Ⅰ（横一列）】

時間	A児	B児	C児	D児
00:00	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:09	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:17	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:27	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:36	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:41	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
01:04	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
01:56	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:52	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:14	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:30	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:34	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:52	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:54	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:15	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:25	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:28	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:04	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:07	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:43	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:44	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
06:13	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
07:02	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
07:18	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
08:06	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
08:12	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
08:39	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
09:04	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
09:29	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
09:39	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
09:55	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
10:28	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
10:44	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
10:51	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
11:02	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備

【調査実験Ⅱ（班編成）】

時間	A児	B児	C児	D児
00:00	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:15	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:21	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:27	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
00:31	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
01:13	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
01:18	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
01:28	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
01:37	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
01:44	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:01	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:04	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:07	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:11	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:16	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:23	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:28	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:35	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:38	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:42	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
02:53	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:08	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:07	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:10	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:14	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:16	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:21	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:28	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:34	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:36	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
03:38	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:00	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:11	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:28	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:37	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
04:52	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:24	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:44	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:47	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
05:55	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備
06:21	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備	描画活動の準備

図7. 調査実験ⅠおよびⅡの幼児たちの発話（序盤）

見たちに、描画活動の最終盤になって素話の内容に関係する発話が集中的に起きていることがわかる。これは、幼児たちが保育活動の終わりを感じ取り、描画の完成を急ぐ必要性から素話の内容を確認したためだと考えられる。一方で調査実験Ⅱの幼児たちの発話は終盤においても、素話の内容に関係する発話が確認できる。そして、最終盤では会話が収束し、オイルパステルなどを片付ける行動を示していることから、保育活動の終わりに向けての準備を整えていることがわかる。

ここで、図5および6の調査実験ⅠとⅡの幼児たちの描画作品について改めて確認すると、調査実験Ⅰの幼児たちの描画作品はいずれも構図が非常に似ており、背景の白さが目立つ。一方で調査実験Ⅱの幼児たちの描画作品は、b児とd児の構図が似ていると確認できるものの、それぞれ画面全体をオイルパステルで密に描画していることが見て取れる。

幼児の描画作品について、そのよし悪しを単純に判断できるものではないが、オイルパステルによって塗り込められた画用紙の状況を確認する上では、調査実験Ⅱの幼児たちの方が描画活動に専念できていたのではないかと推測される。

これには、図7～9の幼児たちの発話の特徴と合わせて考えると、幼児の位置関係によるコミュニケーションの状況の特性が、幼児同士の会話の発展に影響を及ぼしたことが背景にあると想定できる。幼児の位置関係におけるコミュニケーションの状況の想定については図3と4で示したが、

【調査実験Ⅰ（横一列）】

時間	A児	B児	C児	D児
11:07				
11:20				
11:27				
11:49				
12:08				
12:30				
12:35				
12:58				
13:06				
13:20				
13:23				
13:38				
13:50				
14:11				
14:30				
14:50				
15:00				
15:22				
15:32				
15:48				
15:55				
16:14				
16:21				
16:28				
16:37				
16:48				
16:58				
17:08				
17:13				
17:50				
18:02				
18:14				
18:28				

【調査実験Ⅱ（班編成）】

時間	A児	B児	C児	D児
06:43				
06:57				
07:12				
07:34				
07:40				
07:48				
07:58				
08:17				
08:24				
08:30				
08:49				
08:52				
09:04				
09:11				
09:29				
09:42				
10:11				
10:23				
10:47				
10:53				
10:58				
11:18				
11:38				
11:41				
11:49				
12:16				
12:33				
12:37				
12:43				
12:47				
13:09				
13:26				
13:46				
13:49				
14:00				

図8. 調査実験ⅠおよびⅡの幼児たちの発話（中盤）

【調査実験Ⅰ（横一列）】

時間	A児	B児	C児	D児
18:01				
18:17				
18:28				
18:46				
18:56				
20:16				
20:46				
20:57				
21:11				
21:30				
21:53				
22:04				
22:16				
22:29				
22:37				
22:48				
22:59				
23:04				
23:24				
24:05				
24:16				
24:32				
24:38				
24:47				
24:56				
25:27				
25:34				
25:49				
26:11				
26:24				
27:43				
28:24				
28:24				

【調査実験Ⅱ（班編成）】

時間	A児	B児	C児	D児
14:11				
14:18				
14:27				
14:33				
15:09				
15:54				
15:57				
16:01				
16:04				
16:10				
16:13				
16:48				
17:07				
17:12				
17:38				
17:50				
17:57				
18:05				
18:09				
18:13				
18:18				
18:33				
18:37				
18:51				
20:42				
22:16				
22:38				
22:49				
24:22				
24:41				
24:45				

図9. 調査実験ⅠおよびⅡの幼児たちの発話（終盤）

やはり、横一列に並んだ位置関係では、隣接する者同士の会話は十分にできるものの、それ以外の幼児との会話が難しいといえる。そのため、幼児同士の会話が十分に発展せず、会話の目的を達成できない状態が続いたため、その場で興味関心を持った話題に逸れてしまう傾向にあったと考えられる。つまり、今回の調査実験からは、幼児の位置関係が幼児同士の会話の発展に大きく影響を及ぼしていることが理解できた。

まとめ

今回の調査実験では、幼児たちが横一列に並んだ位置関係を、幼児同士の発話が制限される位置関係とし、また、幼児たちが班編成で互に向き合って並んだ位置関係を、幼児同士の発話が制限されにくい位置関係として設定した。その結果、2つの位置関係では、幼児同士の発話に質的な違いが見られた。横一列に並んだ位置関係では、話題の内容が様々な事柄に及び、その場で幼児が感じた内容を言語化していくような特徴を持つことがわかった。一方で、班編成の位置関係では横一列の位置関係よりも中心的な話題、つまり、今回の調査実験の場合では、描画活動の目的であった素話の内容を表現するという話題に戻りやすい傾向にあることが窺えた。

就学期以降の児童や生徒についても、また、大人の場合であっても議論の際に主題から逸れる発話が見られることはある。ただ、その場合でも議論の主題が忘れられることはなく、比較的早い段階で逸脱した発話を本来の目的である主題に戻す発話が見られる。そのような発話が積み重なることによって、議論の際の会話の質が守られることになる。

ただし、幼児の場合は会話そのものに慣れていない場合がある上に、自身の行動を律することを学び取っている過程にあるため、その場の環境などによる影響を受け易い。そのため、保育活動における環境を如何に整えるのかが重要な視点のひとつとなる。

しかし、現在の社会的な状況を勘案すると、保育現場では子どもの生命を守るために新型コロナウイルス感染症の罹患を防ぐ対応を優先せざるを得ない。そのため、保育活動における幼児たちの位置関係が制限され、そのことが幼児同士の言葉の伝え合いにも影響していることが想定される。そして、そのことは今回の調査実験における結果によっても裏付けられたといえる。

本論で得られた知見を保育現場で活躍する保育者が理解しておくことで、子ども達の生命を守るための措置を最優先しながらも、言葉に関わる育ちに対して配慮をすることが可能となる。現在の社会的な状況が子ども達に与える影響について、不安視する声はメディアなどを中心に様々な場面でよく耳目に触れる。ただ、大切なことは不安を煽ることではなく、子ども達の環境を改善できる可能性が高い活動を地道に続けることである。今後も子ども達が置かれている環境は、社会の影響を受け大きく変化する可能性がある。そのような状況においても、適切な対応ができるための知見を増やすことが重要である。今後も、さらに幼児の発話について研究を続け、子ども達の保育環境を守ることができる知見を保育現場に還元したいと考えている。

<本研究はJSPS科研費JP20K02868の助成を受けたものです>

- 1 関敬吾『日本昔話集成 第2部 第1 (本格昔話)』(角川書店、1953) pp.314-319
- 2 例えば、今江祥智・田島征三『ちからたろう』(ポプラ社、1967)、谷真介・高橋信也『ちからたろう (アニメむかしむかし絵本)』(ポプラ社、1992)、平田昭吾『ちからたろう (世界名作ファンタジー60)』(ポプラ社、1999)、杉山亮・伊藤秀男『ちからたろう (日本名作おはなし絵本)』(小学館、2010)、片岡輝・村上豊『ちからたろう (元気いっぱい!日本の昔話)』(チャイルド本社、2013) などである。

謝辞

本研究の実証実験は、社会福祉法人よしみ会幼保連携型認定こども園東百舌鳥保育園でおこない、園長先生をはじめ多くの先生方にご協力を頂きました。心より感謝致します。

引用文献・参考文献・参考資料

- 関敬吾 (1953)『日本昔話集成 第2部 第1 (本格昔話)』角川書店、pp.314-319
- 今江祥智・田島征三 (1967)『ちからたろう』ポプラ社
- 呉羽長 (2002)「今江祥智『ちからたろう』解」富山大学国語教育27、pp.20-29
- 高橋一夫、須増啓之、白波瀬達也 (2020)「幼児同士の言葉による伝え合いを誘発する保育活動—素話から描画活動に繋ぐ保育活動における幼児の発話に注目して—」神戸親和女子大学児童教育学研究39、pp.175-191
- 高橋一夫(2020)「幼児の発話を生み出す保育活動の枠組み—描画活動時の幼児同士の位置関係に注目して—」日本教師教育学会第30回研究大会、明治大学
- 高橋一夫 (2020)「保育活動における幼児の言葉による伝え合い—幼児同士の位置関係による発話の相違—」関西教育学会第72回大会、神戸親和女子大学
- 報告書「[素話]と造形表現活動を組み合わせた保育活動に関する実証的研究」(平成28~30年度科学研究費補助金、基盤研究(C)、研究代表者高橋一夫) 2019
- 『保育所保育指針』
- 『幼稚園教育要領』
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
- 『小学校学習指導要領』

資料1 調査実験 I および II の幼児たちの発話 (全体)

【調査実験 I (横一列)】

発話	発話	発話	発話
0001			
0009			
0017			
0025			
0037			
0045			
0052			
0064			
0076			
0084			
0096			
0104			
0112			
0124			
0132			
0144			
0152			
0164			
0172			
0184			
0192			
0204			
0212			
0224			
0232			
0244			
0252			
0264			
0272			
0284			
0292			
0304			
0312			
0324			
0332			
0344			
0352			
0364			
0372			
0384			
0392			
0404			
0412			
0424			
0432			
0444			
0452			
0464			
0472			
0484			
0492			
0504			
0512			
0524			
0532			
0544			
0552			
0564			
0572			
0584			
0592			
0604			
0612			
0624			
0632			
0644			
0652			
0664			
0672			
0684			
0692			
0704			
0712			
0724			
0732			
0744			
0752			
0764			
0772			
0784			
0792			
0804			
0812			
0824			
0832			
0844			
0852			
0864			
0872			
0884			
0892			
0904			
0912			
0924			
0932			
0944			
0952			
0964			
0972			
0984			
0992			
1004			
1012			
1024			
1032			
1044			
1052			
1064			
1072			
1084			
1092			
1104			
1112			
1124			
1132			
1144			
1152			
1164			
1172			
1184			
1192			
1204			
1212			
1224			
1232			
1244			
1252			
1264			
1272			
1284			
1292			
1304			
1312			
1324			
1332			
1344			
1352			
1364			
1372			
1384			
1392			
1404			
1412			
1424			
1432			
1444			
1452			
1464			
1472			
1484			
1492			
1504			
1512			
1524			
1532			
1544			
1552			
1564			
1572			
1584			
1592			
1604			
1612			
1624			
1632			
1644			
1652			
1664			
1672			
1684			
1692			
1704			
1712			
1724			
1732			
1744			
1752			
1764			
1772			
1784			
1792			
1804			
1812			
1824			
1832			
1844			
1852			
1864			
1872			
1884			
1892			
1904			
1912			
1924			
1932			
1944			
1952			
1964			
1972			
1984			
1992			
2004			
2012			
2024			
2032			
2044			
2052			
2064			
2072			
2084			
2092			
2104			
2112			
2124			
2132			
2144			
2152			
2164			
2172			
2184			
2192			
2204			
2212			
2224			
2232			
2244			
2252			
2264			
2272			
2284			
2292			
2304			
2312			
2324			
2332			
2344			
2352			
2364			
2372			
2384			
2392			
2404			
2412			
2424			
2432			
2444			
2452			
2464			
2472			
2484			
2492			
2504			
2512			
2524			
2532			
2544			
2552			
2564			
2572			
2584			
2592			
2604			
2612			
2624			
2632			
2644			
2652			
2664			
2672			
2684			
2692			
2704			
2712			
2724			
2732			
2744			
2752			
2764			
2772			
2784			
2792			
2804			
2812			
2824			
2832			
2844			
2852			
2864			
2872			
2884			
2892			
2904			
2912			
2924			
2932			
2944			
2952			
2964			
2972			
2984			
2992			
3004			

【調査実験 II (班編成)】

発話	発話	発話	発話
0001			
0018			
0027			
0031			
0039			
0049			
0051			
0058			
0061			
0068			
0077			
0081			
0089			
0097			
0108			
0127			
0128			
0134			
0141			
0149			
0158			
0169			
0171			
0181			
0189			
0198			
0209			
0211			
0219			
0229			
0239			
0249			
0258			
0268			
0277			
0288			
0298			
0309			
0318			
0329			
0339			
0349			
0358			
0368			
0377			
0388			
0398			
0409			
0418			
0429			
0439			
0448			
0458			
0467			
0477			
0488			
0498			
0509			
0518			
0529			
0539			
0548			
0558			
0567			
0577			
0588			
0598			
0609			
0618			
0629			
0639			
0648			
0658			
0667			
0677			
0688			
0698			
0709			
0718			
0729			
0739			
0748			
0758			
0767			
0777			
0788			
0798			
0809			
0818			
0829			
0839			
0848			
0858			
0867			
0877			
0888			
0898			
0909			
0918			
0929			
0939			
0948			
0958			
0967			
0977			
0988			
0998			
1009			
1018			
1029			
1039			
1048			
1058			
1067			
1077			
1088			
1098			
1109			
1118			
1129			
1139			
1148			
1158			
1167			
1177			
1188			
1198			
1209			
1218			
1229			
1239			
1248			
1258			
1267			
1277			
1288			
1298			
1309			
1318			
1329			
1339			
1348			
1358			
1367			
1377			
1388			
1398			
1409			
1418			
1429			
1439			
1448			
1458			
1467			
1477			
1488			
1498			
1509			
1518			
1529			
1539			
1548			